国鉄に移管，三角線と呼ぶこととなったものである。(森 悌寿)

みずや　水屋　従来は小規模の運送屋を総称した言葉であったが，道路運送法(昭和26年法律第183号)が制定されてからは，同法第2条第4項に規定する自動車運送取扱事業を行う者をいうようになった。語源は水売から出たもので，文化年間頃に，市中や街道を往来する人々ののどを潤おすためになくてはならぬ商売であった。常盤津(ときわず)の「閨玆姿八景」にもこの商売の実態が描写されている。大阪地方では今でも葬儀屋のことを水屋と呼んでいるが，これは得意先の冠婚葬祭などの際にかけつけて何くれとなく世話をやき，ふき掃除などの雑用までもかたづけて重宝がられた昔の水屋の名ごりであろう。水屋は先に述べたように，文化年間大阪や江戸に発達した商売であるが，初めは冷い水を運んできて需要者に売るだけであったのが，次第に仕事の範囲をひろめ，依頼されれば必要な物品の購入・運搬・荷造その他の雑用までやるようになったものである。

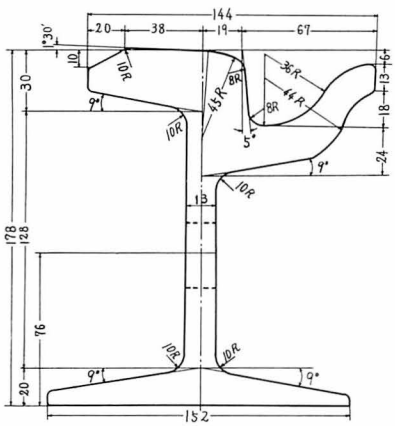
参考文献　運輸調査局編　通運辞典。(梶田勝次郎)

みせいせん　未成線　工事中の線路にして営業するまでにいたっていない鉄道線路。(小川泰平)

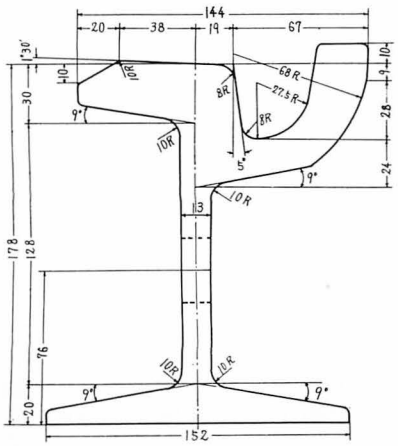
みぞきじょう　溝軌条　(英) groove rail　軌条自体に輪縁路のあるものを溝軌条または**グルーブレール**という。直線部に使用する溝軌条(**溝レール**)および曲線部に使用する護輪溝軌条(**護輪溝レール**)がある。その形状は図-1～4のとおりである。

溝軌条は＊ハイティーレール(H.Tレール)とともに主として市街地区の路面電車用の軌条として使用されており，軌道建設規程(大正12年内務・鉄道省令)には，市街地における併用軌道で交通がとくにひん繁な箇所，転轍器または轍叉(てっさ)を設置する箇所には溝軌条を用い，もしくはこれに準ずる施設をすべきことを定めている。

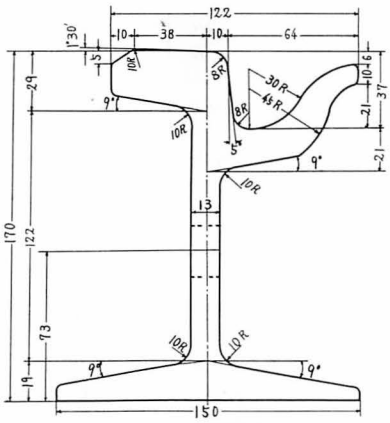
1. 61kg 溝レール (日本工業規格鉄道用軌条図。2,3,4も同じ)



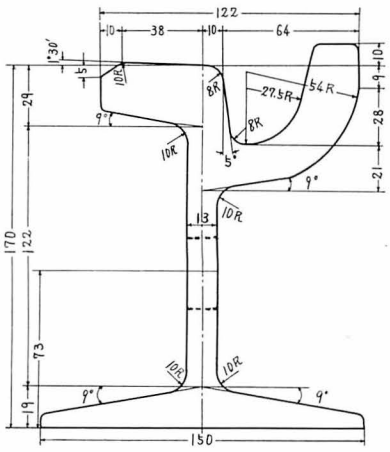
2. 67kg 護輪溝レール



3. 51kg 溝レール



4. 56kg 護輪溝レール



溝軌条はハイティーレールにくらべて，輪縁路の保持が容易で，したがって路面舗装を損することが少ないが，軌条頭の摩滅により輪縁路が浅くなり，車輪は輪縁(flange)で走るようになる。また小石等のために脱線するおそれを生ずる欠点があり，ハイティーレールにくらべて軌条の寿命が短い。

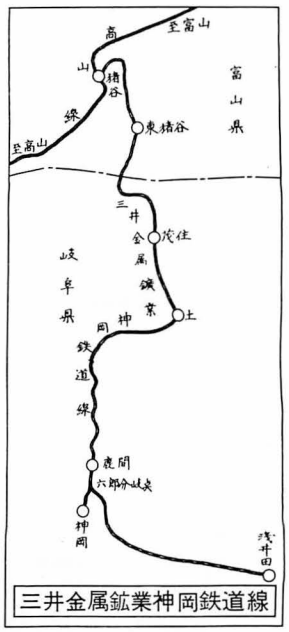
現在わが国ではまだ溝軌条の製作ができないから，外国品の購入にまたねばならぬ不利があり，価格もハイティーレールにくらべて高い。(林　四郎)

みついきんぞくこうぎょうかみおかてつどう　三井金属鉱業神岡鉄道

1　事業者の概要

名称　三井金属鉱業株式会社，本社　東京都中央区室町，神岡鉱業所は岐阜県吉城郡船津町，資本金60,000万円，おもな事業　鉱業，製錬，金属加工，鉱山，化学工業用機械，電気機器の製造，地方鉄道。鉄道従事員125人，保有車両　内燃機関車15，客車24，貨車526両。

沿革　大正12・5三井鉱山株式会社の軌道として特許，同年7月運輸開始，昭和7・3神岡水電株式会社へ譲渡，同17・10ふたたび三井鉱山株式会社がゆずり受け，同20・4地方鉄道に変更，同25・5金属部門を分離して三井金属鉱業となり，鉄道事業を承継現在に至る。

2　地方鉄道線

国鉄高山線猪谷駅に連絡，猪谷(富山県)・神岡町(岐阜県)間23.9kmおよび鹿間・浅